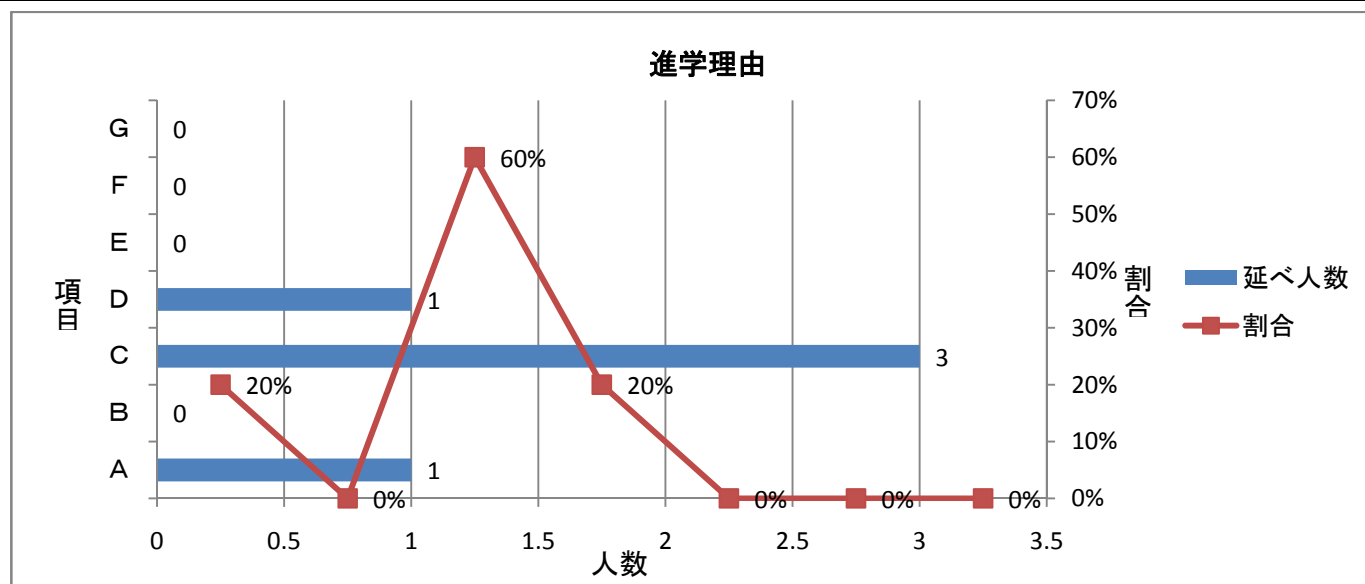


2010年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート集計結果

2.進学理由

*複数回答

項目	延べ人数	割合	内容
A	1	20%	現在の仕事に関して、より専門知識を身に付けるため
B	0	0%	興味・関心のある分野の勉強がしたくなったから
C	3	60%	資格取得のため(税理士試験科目免除、臨床心理士国家試験受験資格、教員専修免許等)
D	1	20%	大学院卒業という学歴が欲しいから
E	0	0%	将来に不安を感じたから
F	0	0%	時間に余裕が出来たから
G	0	0%	その他

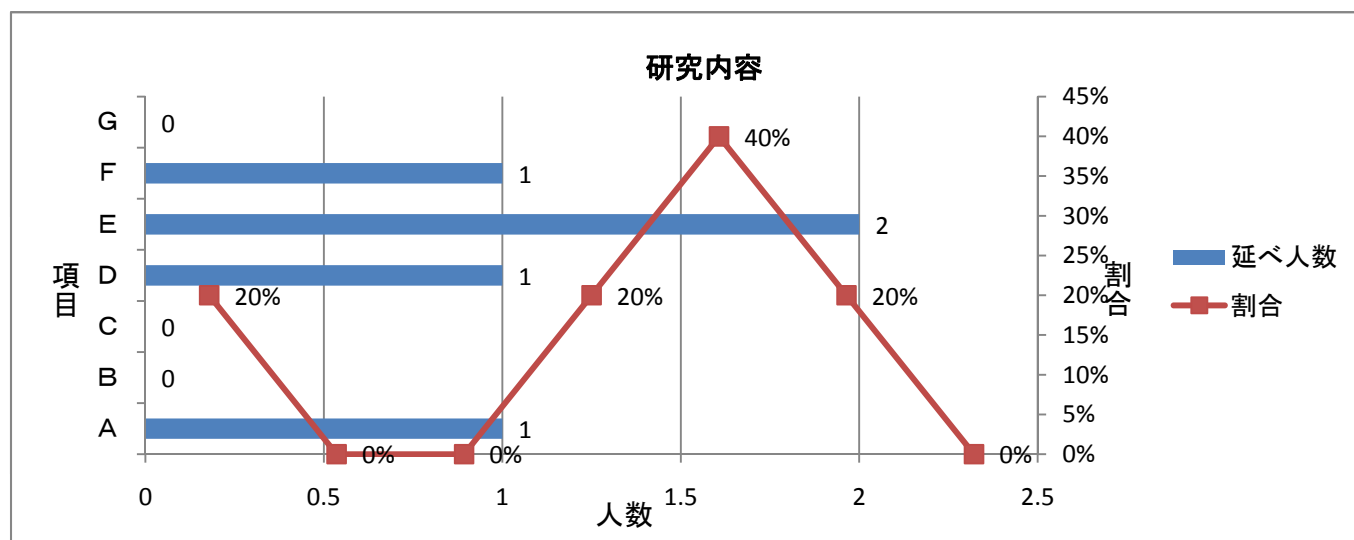


3.研究について

*複数回答

①研究内容

項目	延べ人数	割合	内容
A	1	20%	理論的研究
B	0	0%	調査・インタビュー・実験を用いる研究
C	0	0%	二次資料・史料の収集や整理を伴う研究
D	1	20%	課題の発見に関する研究
E	2	40%	課題の解決を目指す研究
F	1	20%	実践的応用に関する研究
G	0	0%	どれにもあてはまらない



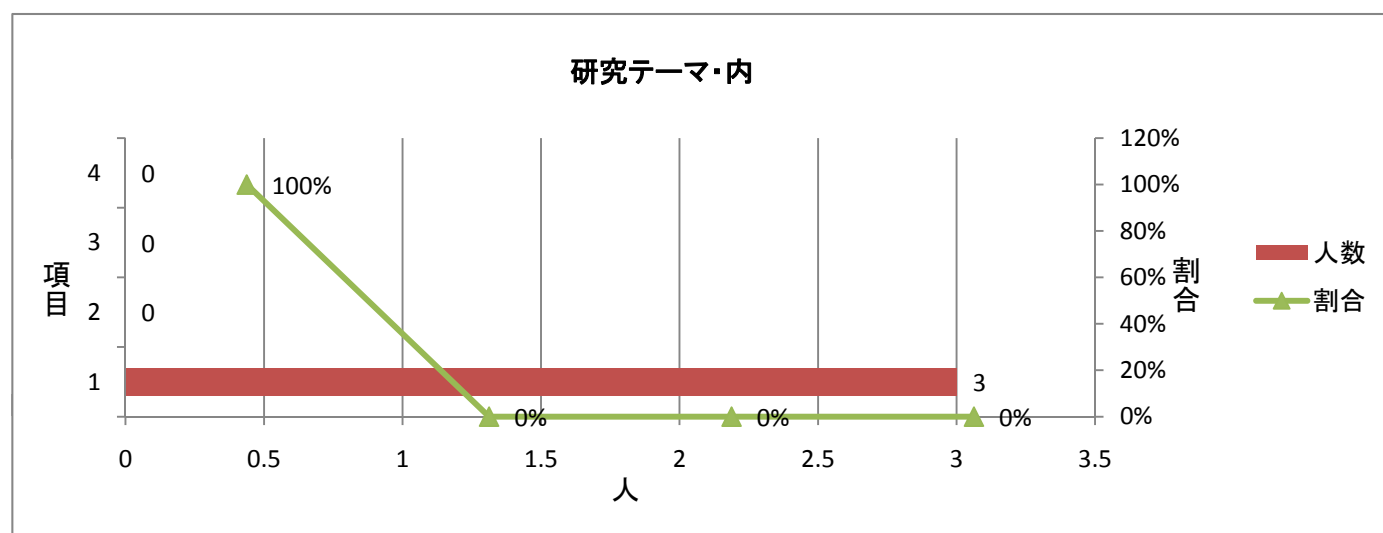
2010年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート集計結果

②研究の傾向

I. 研究テーマ・内容

項目	人数	割合	内容
1	3	100%	Aにあてはまる。
2	0	0%	ややAに近い。
3	0	0%	ややBに近い。
4	0	0%	Bにあてはまる。

* A: 研究のテーマ内容が明確である。 B: 研究のテーマ内容がまだ明確に決まっていない。

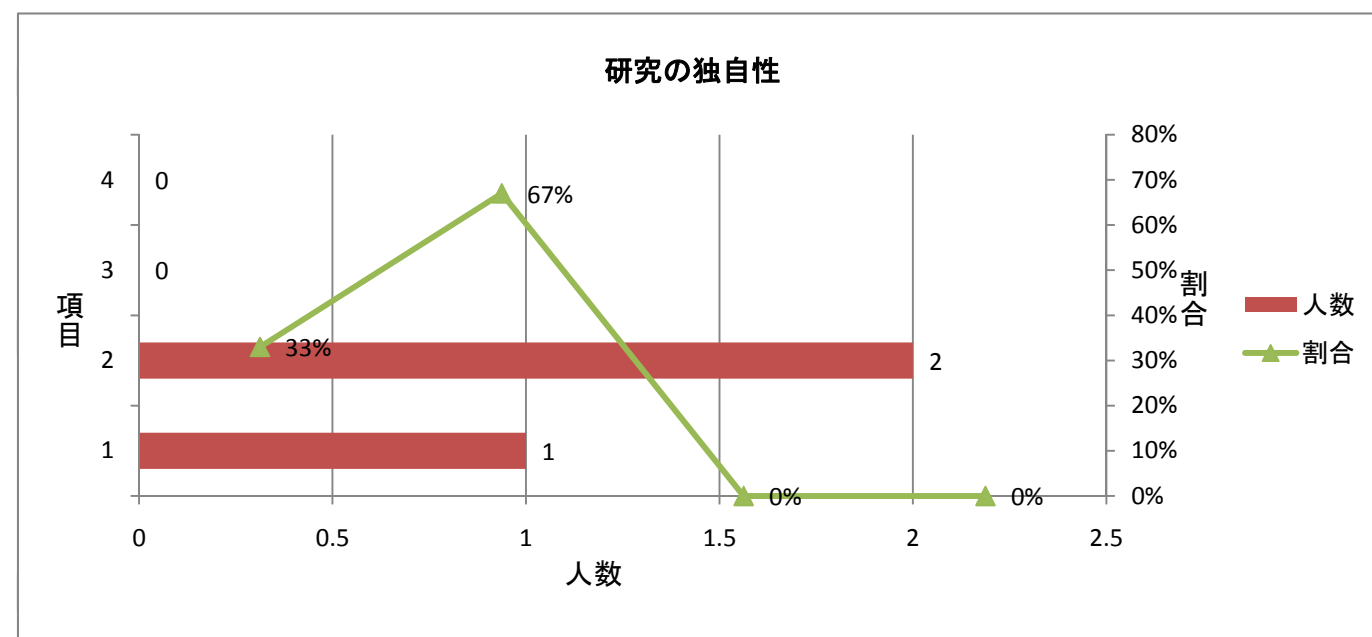


II. 研究の独自性

項目	人数	割合	内容
1	1	33%	Aにあてはまる。
2	2	67%	ややAに近い。
3	0	0%	ややBに近い。
4	0	0%	Bにあてはまる。

* A: 研究の独自性(オリジナリティ)を意識しながら、研究を行っている。

* B: 独自性(オリジナリティ)は意識せずに、研究を行っている。



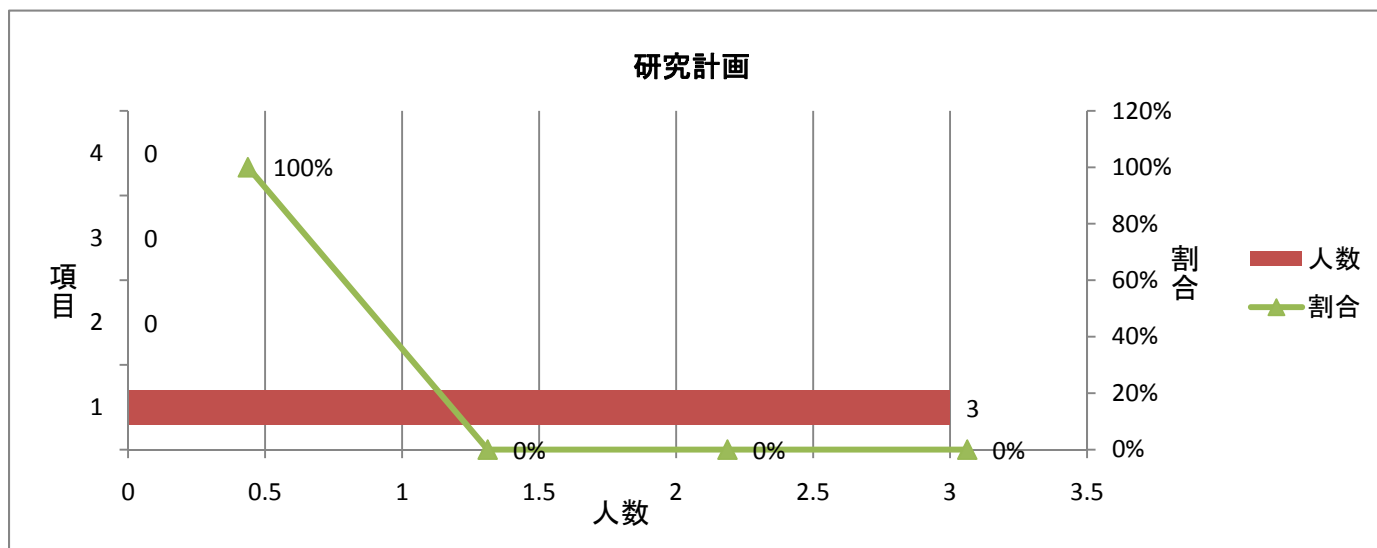
2010年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート集計結果

Ⅲ.研究計画

項目	人数	割合	内容
1	3	100%	Aにあてはまる。
2	0	0%	ややAに近い。
3	0	0%	ややBに近い。
4	0	0%	Bにあてはまる。

* A: 研究の計画が具体的に定まっている。

* B: 研究の計画は、まだ、具体的に定まっていない。

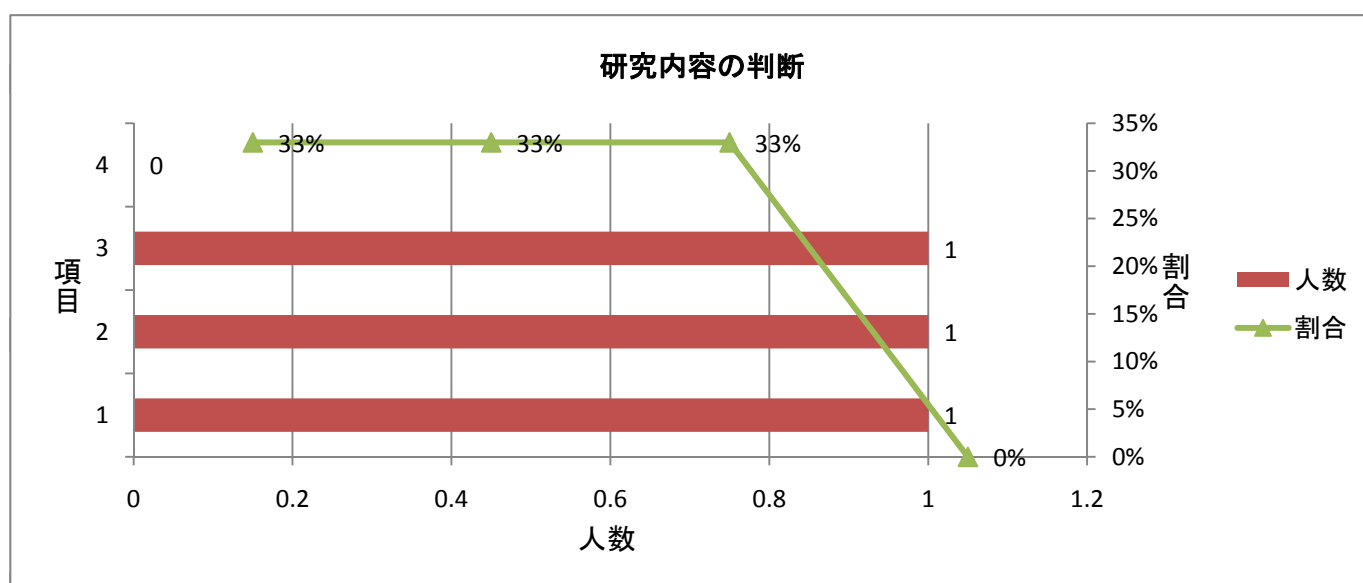


Ⅳ.研究内容の判断

項目	人数	割合	内容
1	1	33%	Aにあてはまる。
2	1	33%	ややAに近い。
3	1	33%	ややBに近い。
4	0	0%	Bにあてはまる。

* A: 研究を行うときには、自分自身の判断によってすすめている。

* B: 研究を行うときには、教員や先輩の指示に頼っている。



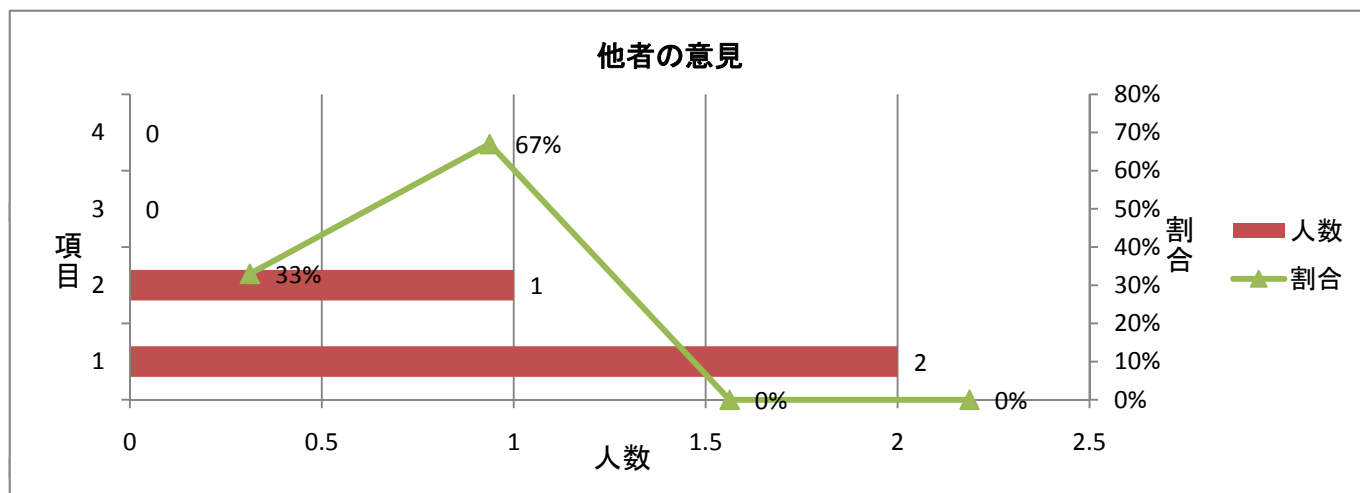
Ⅴ.他者の意見

2010年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート集計結果

項目	人数	割合	内容
1	2	33%	Aにあてはまる。
2	1	67%	ややAに近い。
3	0	0%	ややBに近い。
4	0	0%	Bにあてはまる。

* A: 他者(学内の教員、先輩)に意見をもらう機会を自分で作る。

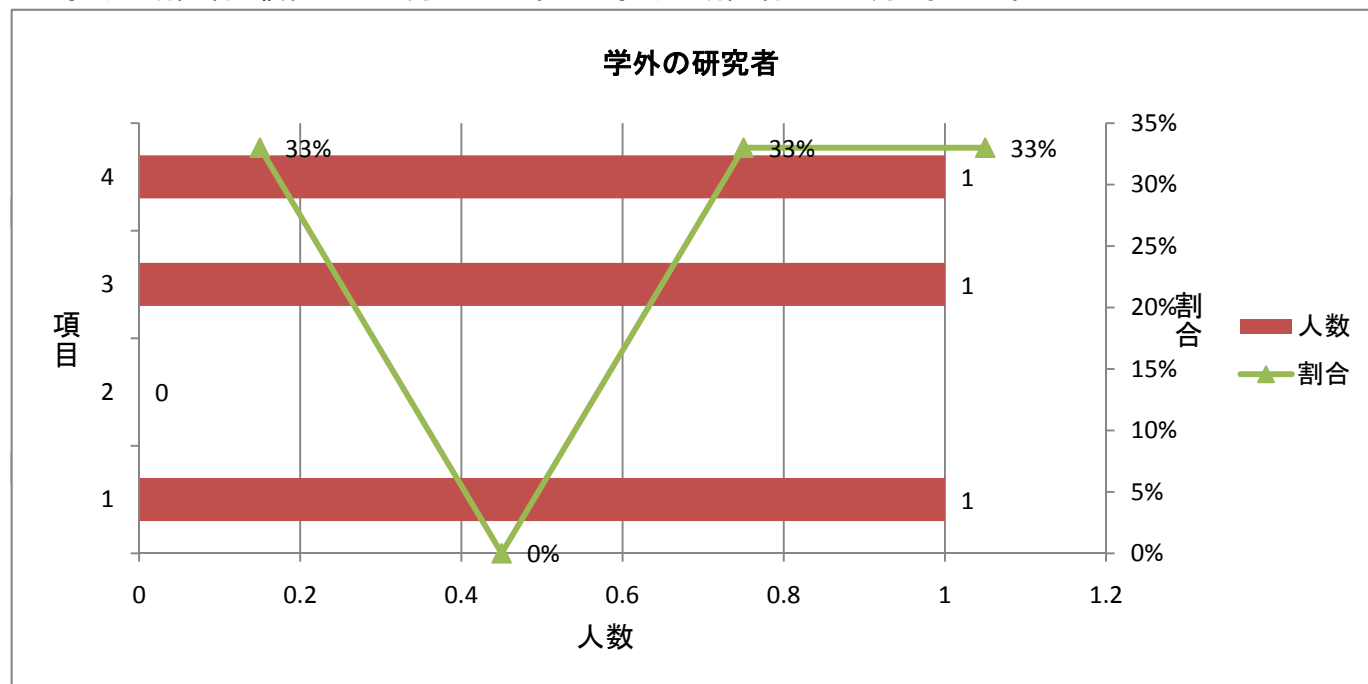
* B: 意見をもらう機会は、他者が設定してくれる。



VI. 学外の研究者

項目	人数	割合	内容
1	1	33%	Aにあてはまる。
2	0	0%	ややAに近い。
3	1	33%	ややBに近い。
4	1	33%	Bにあてはまる。

* A: 学外の研究者と積極的に交流している。 B: 学外の研究者との交流は少ない。

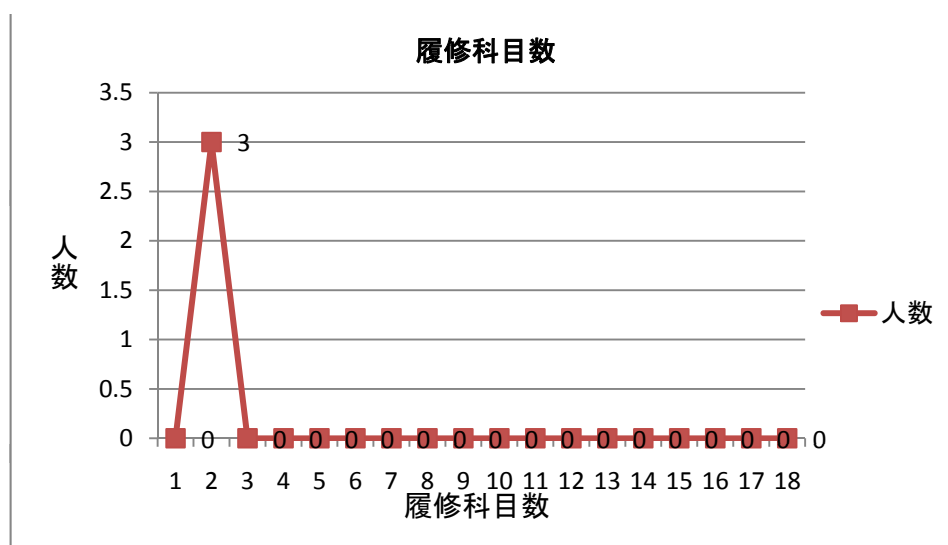


4. 大学院開講科目について

① 履修科目数

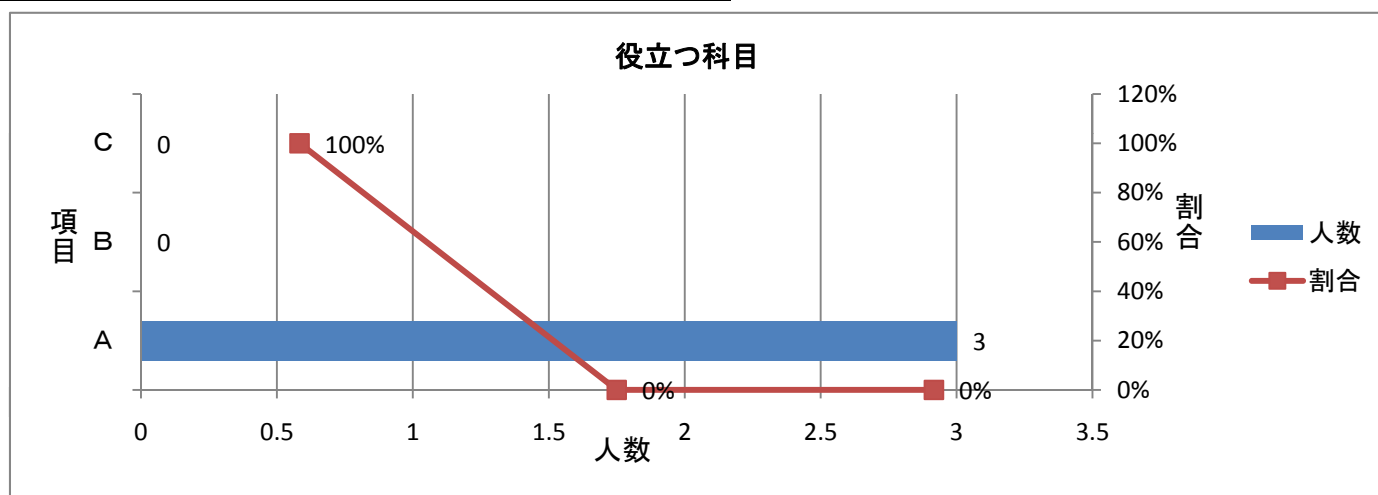
2010年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート集計結果

履修科目数	人数
0	0
1	3
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0
16	0
17	0



②役立つ科目

項目	人数	割合	内容
A	3	100%	ある
B	0	0%	ない
C	0	0%	科目の履修はしていない



②-2 科目名

M2	租税法、行政法、商法(M1にて受講)
M2	特殊研究
M2	租税法

②-3 どのような点が役立つと思ったか

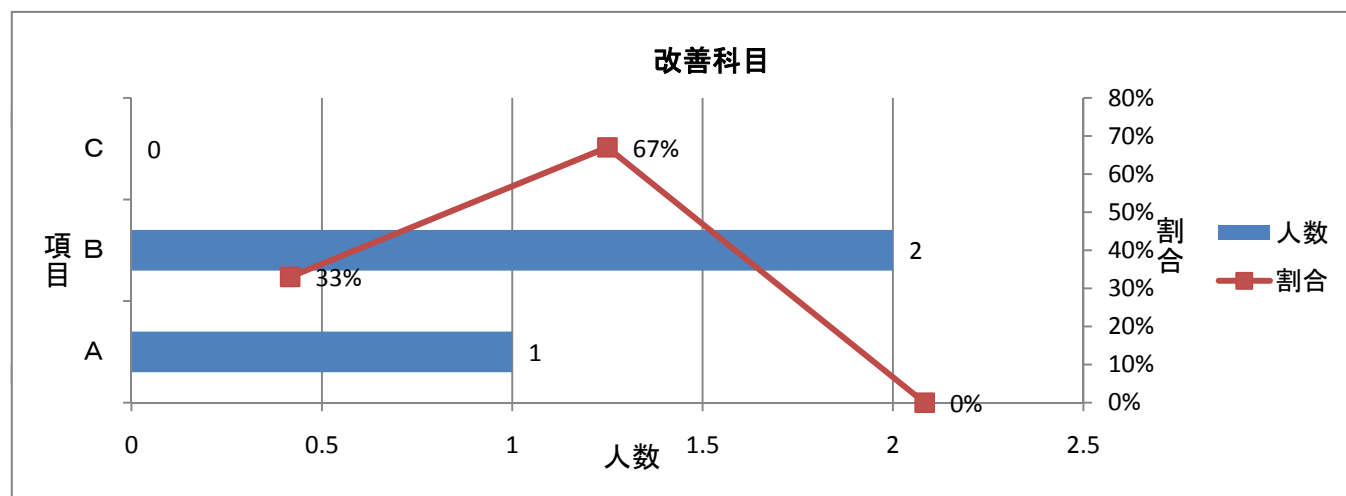
M2	論文を書くに当たっての知識を習得した。
M2	特殊研究を担当している先生以外の別の先生が何回も個人面談をしてくれて、修士論文が作成できたこと。
M2	修論に直接関わりがあるから。

③改善科目

項目	人数	割合	内容
A	1	33%	ある

2010年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート集計結果

B	2	67%	ない
C	0	0%	科目の履修はしていない



③-2 科目名

M2	特殊研究
----	------

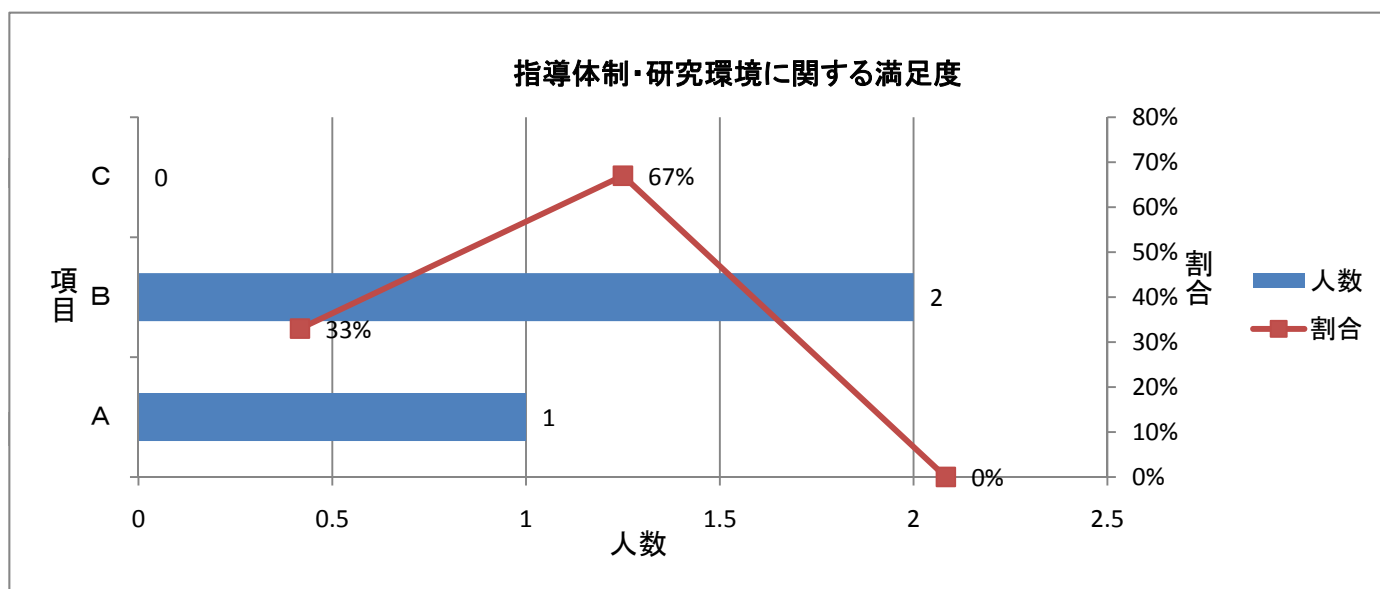
③-3 どのような点を改善した方が良いと思ったか

M2	特殊研究を担当している先生以外の別の先生が実質的には修士論文の指導をしているので、その先生が直接特殊研究の授業ができるように改善した方がよいと思う。
----	--

5. 指導体制・環境

① 指導体制・研究環境に関する満足度

項目	人数	割合	内容
A	1	33%	満足している
B	2	67%	満足していない
C	0	0%	どちらでもない



② 満足できない理由

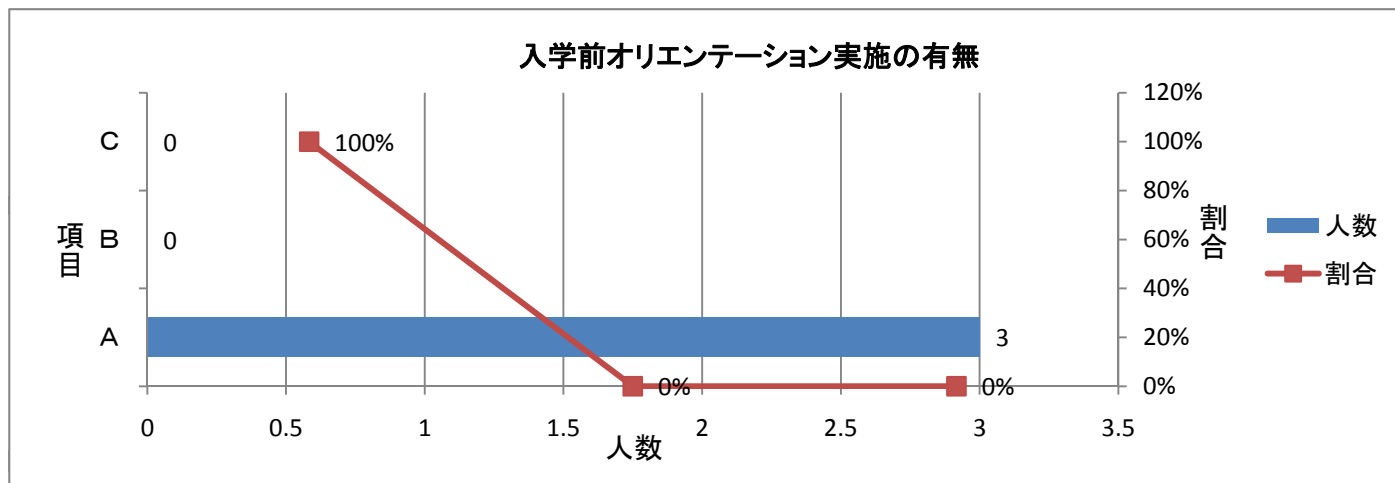
M2	1つの科目(税法)に講義が集中しすぎ。他の科目ももっと開講した方がよいと思う。指導体制も1人の先生に集中しすぎ。まわりのサポート体制も含めて考えないといけないと思う。
M2	井端ゼミならまだしも、他のゼミでは、特に租税に関する論文作成では対応がきびしい。途中のペース配分

2010年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート集計結果

Ⅳ Ⅳ がしにくい。

③入学前オリエンテーション実施の有無

項目	人数	割合	内容
A	3	100%	あった方がよい
B	0	0%	無くてもよい
C	0	0%	どちらでもよい



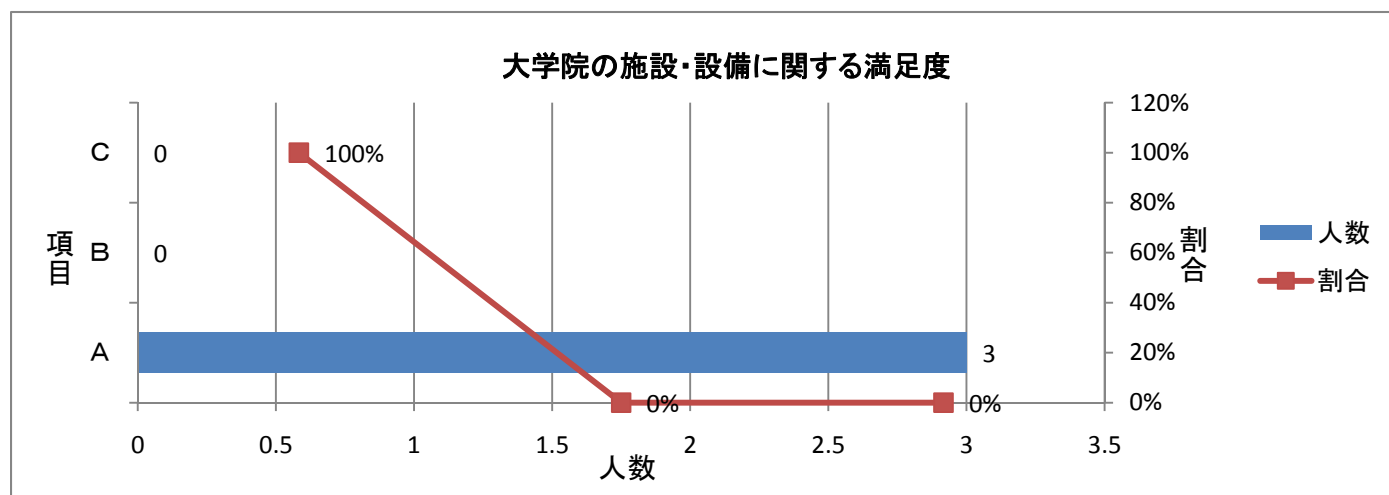
④指導体制、方法、研究環境に関する意見・要望

M2	指導体制について、税理士試験免除のための論文作成のニーズが高いと思われることから、できるだけ税法の先生と協力して、税法とリンクするよう、他の授業等の内容、課題、ペース等を配慮して欲しい。
----	---

6.施設・設備

①大学院の施設・設備に関する満足度

項目	人数	割合	内容
A	3	100%	満足している
B	0	0%	満足していない
C	0	0%	どちらでもない



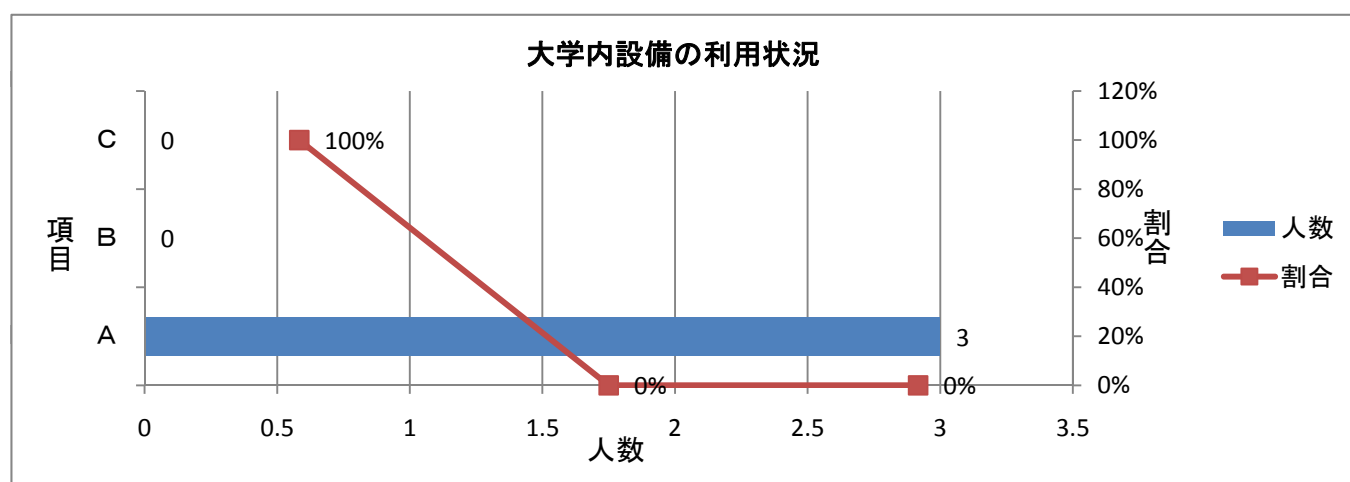
②満足できない理由

③大学内設備の利用状況

項目	人数	割合	内容
----	----	----	----

2010年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート集計結果

A	3	100%	よく利用している
B	0	0%	たまに利用している
C	0	0%	全く利用していない



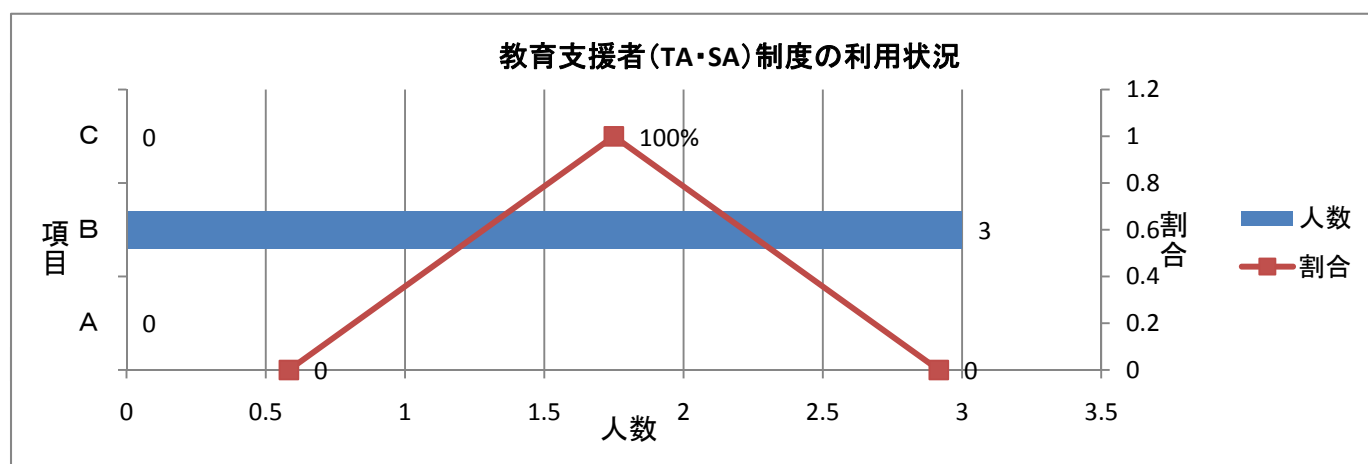
④大学院の施設・設備に関する意見・要望

M2	図書館の研究個室をもっと明るくしてほしい。
M2	卒業生も同様に使用できるようにして欲しいです。
M2	修士論文作成等について、GWや年末年始も含めて、祝日も13号館又は、図書館のPCの利用ができるようにして欲しい。(今は、特別に申請しているが、2週間前までには難しい。)

7.教育支援者(TA・SA)制度

①教育支援者(TA・SA)制度の活用状況

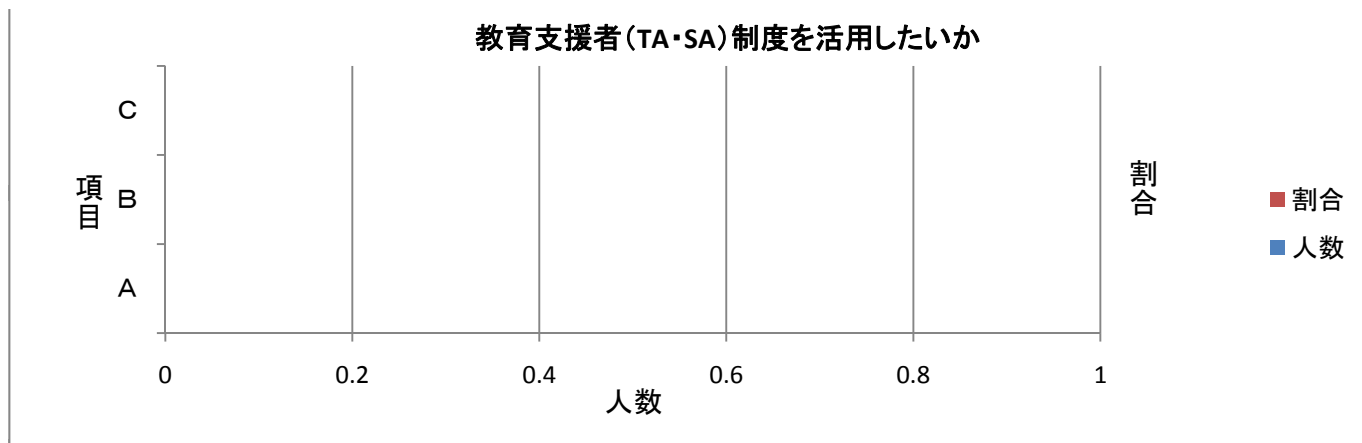
項目	人数	割合	内容
A	0	0	している
B	3	100%	していない
C	0	0	過去に活用していた



②教育支援者(TA・SA)制度を活用したいか

項目	人数	割合	内容
A	0	0	活用したい
B	0	0	活用したくない
C	0	0	どちらでもない

2010年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート集計結果



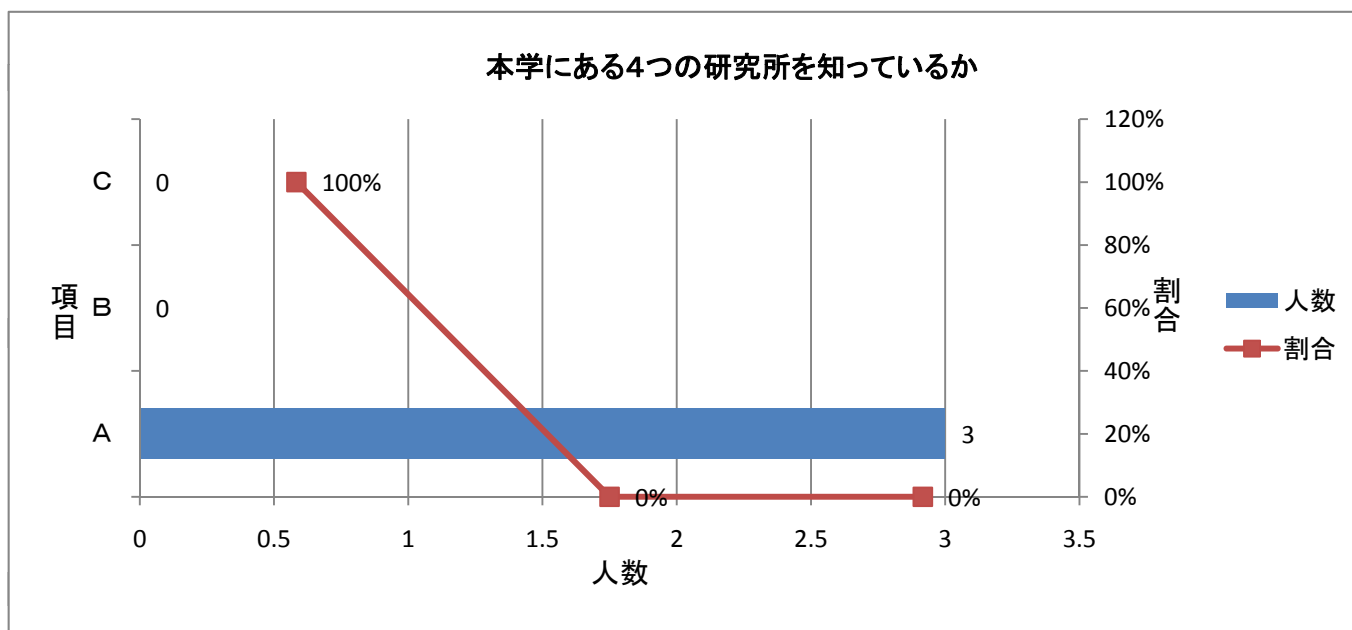
③②の理由

※②③は、現M1のみ回答のため、該当者なし

8.本学に付置している研究所について

①本学にある4つの研究所を知っているか

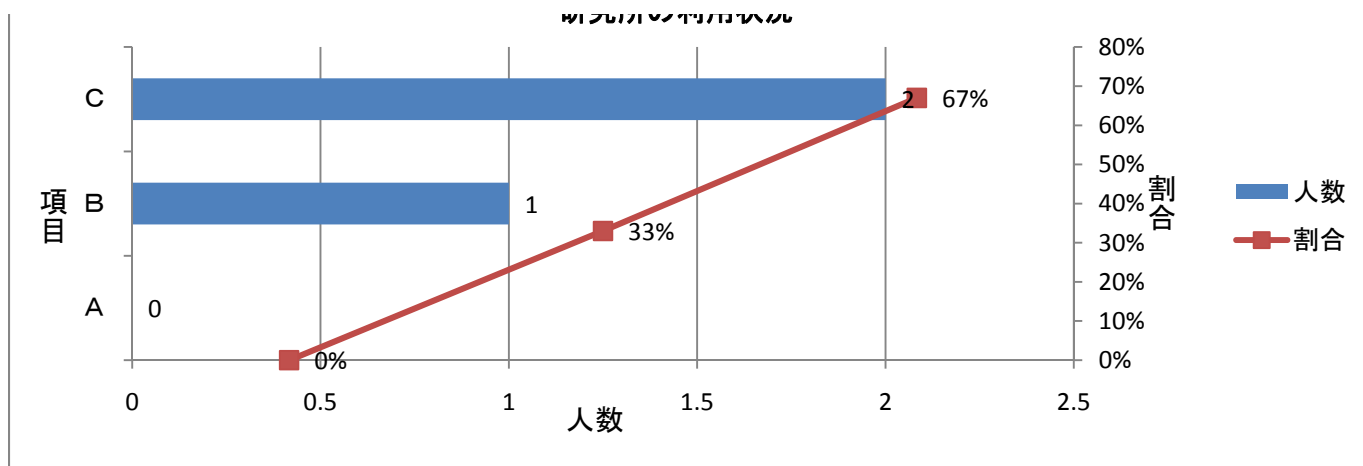
項目	人数	割合	内容
A	3	100%	知っている
B	0	0%	知らない
C	0	0%	興味がない



②研究所の利用状況

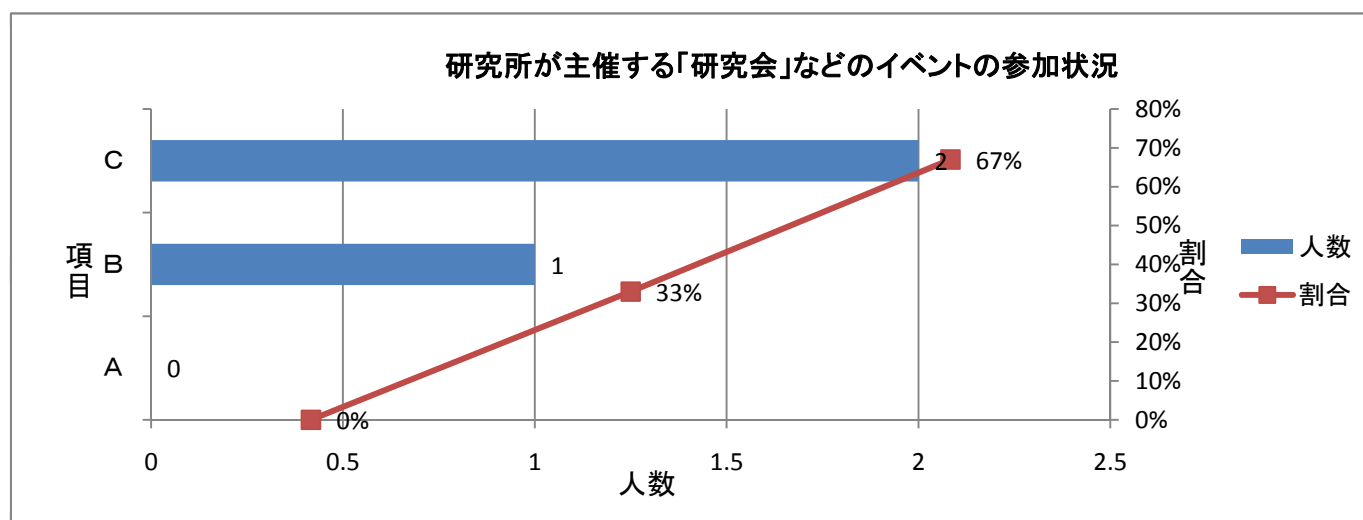
項目	人数	割合	内容
A	0	0%	よく利用している
B	1	33%	たまに利用している
C	2	67%	全く利用していない

2010年度 大学院教育研究の向上に関するアンケート集計結果



③ 研究所が主催する「研究会」などのイベントの参加状況

項目	人数	割合	内容
A	0	0%	よく参加している
B	1	33%	たまに参加している
C	2	67%	全く参加していない



9. その他の意見・要望

M2	修士論文の最終試験に面接官の先生が1人いなかったことは、ありえないことだと思いました。
----	---